ペンデュラム

夏目 貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ペンデュラム

【Ｎコード】
Ｎ３８５４Ｊ

【作者名】
夏目　貴

【あらすじ】
一人だけの世界で生きていた僕は、あの光と出会って変わっていく。
自分の求める光は、いったいどこにあるのか？

そこには僕しかいなかった。小さな家と古びた倉庫に大量の本、それさえあれば僕の世界は廻っていた。
そんな僕でも楽しみがあった。毎日海岸沿いにある崖から夕陽を眺めることだ。
この道を通るのは僕だけ。この崖に来るのも僕だけ。他には誰もいない。
いつも同じ道を同じ速度で歩き、同じ景色を目に焼き付けていた。
こんな毎日を退屈だと思う人もいるだろう。
それでも僕には大切なものであり、これが僕の生き方だった。

いつものように崖に行くと、見たこともないものがそこにはあった。僕は動揺した。
しかし、その動揺はすぐに体の中から消え、その奥から今まで感じたこともないような気持ちがあふれ出てきた。
今思えばそれは興味であり、好奇心であり、もしかしたら好意だったのかもしれない。
その時は、いつもの景色とは違うものがそこにあり、
僕にはそれがきらきら光って見えた。
僕はいてもたってもいられなくなり、思いきって声をかけてみることにした。

――――――こ、こんにちは。

緊張したせいか、声が震えていた。
そんなことよりも、僕の声はちゃんと届いたのだろうか？
少し声が小さかったのかもしれない。今度はもっと大きな声で…
そう思った時だった。

その光は消えてなくなり、いつもと変わらない同じ景色に戻った。
さっきまであった興味や好奇心は消え、残ったのは悲しみと絶望。
きっと神様が与えた罰だと思った。
僕には最初から光を得ることも、見ることさえ許されてはいなかった。
そんな僕が光を求めたから、神様は怒ったのだろう。
辛くなんかない、またいつもと同じ毎日になるだけ、ただそれだけ…

あれから何日過ぎただろうか。あの後、家に帰っても光のことが気になってしょうがなかった。
分からないのが辛かった。分かることさえ許されない自分がひどく悔しかった。
いっそ忘れた方が楽なのではないか？
しかし、いつまでたっても光のことは僕の体の中をぐるぐると廻っていた。
なぜ出会ってしまったのだろうか？出会わなければこんなに辛い思いをしなくてすんだのに…
僕は考えた。どうしたら光の事が分かるのか？
僕の知識の糧は本しかなかった。とにかく本に光のことが書いてあるかもしれない。
そう思って倉庫に行くと、たくさんある本棚の奥に一枚の絵を見つけた。
その絵にはとても美しい女性と、あの崖が描かれていた。
なぜこんな絵が家にあるのか、僕には分からなかった。
ただ、その絵はとても美しく、なんだかあの光に似ていた。

僕は決心した。僕があの光を描けばいい。
倉庫には絵具から筆まで、絵を描くための道具が一式揃っていた。
僕はあの日見た光を記憶だけで描いていった。
何枚も何枚も光だけを描いた。それはとても楽しかった。

光と同じ所にいる気がした。
けれども、僕が描いた光はどこか淋しげだった。
何枚描いてもあの日見た光とは何かが違った。
こんなもの捨ててしまおう。
僕は、光と出会った崖へ絵を捨てに行った。
いつもと同じ道を同じ速度で歩き、いつもと同じ景色がそこにはあった。
いつもと同じ崖から描いた絵を投げた。
何も感じなかった。あれはただの絵で、光ではないから。
僕は一人で生きていなければならなかったのに。何も求めてはいけなかったのに。
光と出会ったことによって、僕は一人の淋しさや辛さを知ってしまった。

――――――まだ最後の一枚が残っているじゃないか。

僕の心の中には、あの日見た光が今も鮮明に描かれていた。
最後の一枚を崖から投げる。
その一枚は、あの日見たものと同じようにきらきら光っていた。

（後書き）

最後まで読んでくださりありがとうございました。
初めての投稿で至るところはありますが、率直な感想やアドバイスなどいただけると嬉しいです。
これからもちょくちょく書いていこうと思いますのでよろしくおねがいします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3854j/

ペンデュラム

2011年1月27日10時33分発行